

試験研究(中間)評価整理表

部 会 名 林業部会
主 務 課 森林計画課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究機関		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目			1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		評価時までの進捗状況	内外の状況変化	成果の見通し				
1	安全・安心な農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進	広葉樹小中径材利用拡大方法の検討	林業研究センター	R5	R7	3,296	B	B	B	B	計画のとおり試験研究が進捗し、広葉樹小中径材の新たな用途として期待される。県内の広葉樹林の利活用、伐採・更新の促進が期待されるため、継続して試験研究を行うべきである。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・歩留まりを向上させるための伐採木の条件、使用する材の樹種についての検討を行い、伐採現場で活かされる知見の供出も目指してほしい。 ・強度など品質について、ラミナや原木丸太への要求度が高くなると立木価格上昇に寄与できないことが想定されるため、サプライチェーンに関わる各業種の収支について、十分な検討が必要と考える。 ・最終年度(令和7年度)に当たり、商品化に向けた課題(最終歩止まり、製造原価、収益性等)を設定調査し、民間事業者への円滑な技術移転を期待する。

試験研究(事後)評価整理表

部 会 名 林業部会
主 務 課 森林計画課

No.	施策目標	研究課題名	試験研究機関名	試験研究機関		予算額 全体予算 (千円)	具体的評価項目				1次評価	部局コメント	最終評価	外部評価委員からの意見等
				始期	終期		当初の研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等				
1	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	少花粉スギ種苗の増産技術の開発	林業研究センター	R元	R5	4,008	B	A	A		A	研究成果は、当初の目的を十分に達成したと判断される。	A	<ul style="list-style-type: none"> 育苗期間の気温・湿度・日照量等の環境条件を整理し、積極的な成果普及と早急な実用化を期待したい。 低コスト、省力化の程度を数値化して分かりやすく示すことで普及を図っていただきたい。 コンテナ直挿し法について、苗の苗長のほか、根元径、根鉢等のデータ及び管理方法等を整理し、現地での生産の実用化につなげて欲しい。
2	林業・木材産業の振興	広葉樹の増殖に関する研究	林業研究センター	R元	R5	2,672	B	A	B		B	研究成果は、当初の目的を概ね達成したと判断される。	B	<ul style="list-style-type: none"> 成果は有用であるが、数値の結果から多寡を議論する際に統計的な検定結果を明記し、より客観的に評価する必要がある。 今後は、萌芽の生長や精油量を確認することが必要と考える。
3	安心・安全を強化する取り組み	海岸防災林の造成・管理技術に関する研究	林業研究センター	R元	R5	993	A	B	B		B	海岸防災林における植栽木生育不良等の原因と対策、広葉樹の樹種ごとの生育特性を検討するとともに生育状況把握手法の提案を行ったことから、今後の保育管理への応用も期待される。	B	<ul style="list-style-type: none"> 枯死率の結果から枯死要因については通気性・排水性だけではない可能性や、侵入したヤシヤブシの活用など、造林地の更新動態の制御に関して更なる研究の必要性を感じる。 今後の研究により、成林に向けた具体的な取り組みが確立することを期待する。
4	自然・環境と共生する農林水産業の推進	木質系廃棄物の利用に関する研究	林業研究センター	R2	R5	7,236	B	B	B		B	パークをセメントで固形化した新たな製品を開発することができた。市販されているコンクリート製透水平板と比較して、一部に有利な性能が確認でき、パークの新たな利活用用途として期待できると考えられる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 製造コストや用途・活用先について一層の改善・検討を経ることで広く普及が図れるものと期待できる。 商品化に向けて、コストは勿論のこと、歩道に利用した場合の街路樹の生育への影響など、製品の具体的な価値を分かりやすくアピールすることを期待する。 製品の特徴、製造原価等を技術資料としてとりまとめ、商品化の実現を期待する。